

研修レポート 11月

志水 慈子

日本はすっかり寒くなったようですが、メキシコも最低気温が1度になるなど、どんどん朝晩が冷え込んできています。相変わらず空気は乾燥しており、走っていると日本の冬以上に呼吸がしにくくしんどく感じます。メキシコでは冷暖房がほぼなく、家でも学校でも寒さとの戦いです。

I メキシコのお祭り

11月2日は“死者の日”として盛大な催しがありました。日本のお盆のような風習でラテンアメリカを中心に、特にメキシコでは重要な祭日です。中でもパツクアロ湖に浮かぶハニッツィオ島とチーズで有名なオアハカが死者の日のセレモニーとしてはよく知られています。11月1日、2日は家族や友人、親戚が集まり故人への想いを馳せます。1日は子どもの魂が、2日目は大人の魂が戻ってくるため、オフレンダという祭壇に置くお供え物もお菓子からお酒に変わります。オフレンダは各々の家だけではなく、広場や公園など様々な場所に設置されていました。日本のお盆のような改まった様子ではなく、楽しく明るくお祝いしており、ハロウィーンのような印象でした。



メキシコでは約2500年前から祖先の骸骨を飾る習慣があり、それが冥府の女神ミクトランシワトル、死者の貴婦人カトリーナに捧げる祭りと変貌を遂げ、スペインからの侵略でカトリックの諸聖人の日と融合して今の形となったといわれています。

映画“007 スペクター”の冒頭でも死者の日のパレードの様子が映っています。また、最近公開されたCOCO（日本ではリメンバーミー）という映画が丁度死者の日のメキシコの様子を映していて素敵でした。

II 学校の様子

ようやく2コース目が終わり、今年の授業がすべて終了しました。来た当初は右も左もわからない状態でしたが、この2コースで大きく進歩できたと思います。テストの最後にはクラスメイトで写真を撮ったり、担任の先生に寄せ書きをプレゼントしたりしました。



前回CEPEではスペイン語のクラス以外にも文化クラスがあると書きましたが、各コースの最後には発表会があり、他の生徒はホールでダンスや演劇の発表を見ることができます。また一定レベル以上ならクラスを受講できるため、他のレベルの友達を作る良い機会にもなります。CEPEではメキシコの文化に関する講演を定期的に行ったり、季節ごとのイベントもあつたりと盛沢山でした。

時々校内に露店が並び、地方の郷土料理や手工芸品などを手軽に購入することもできます。死者の日の近くには死者の貴婦人カトリーナ（がいこつの女性で、ドレスをきて大きな帽子を被っている：1番最初の写真の左）の人形も並んでいました。

今後も気をひきしめてスペイン語の勉強を頑張りたいと思います。



今月のメキシコ料理

②ポソレ

ハリスコ州やゲレーロ州で有名な濃厚な真っ赤なスープ。赤カブや肉、大粒のトウモロコシがゴロゴロと入っています。スープを頼めばトルティージャチップスもついてきて、浸して食べます。付け合わせにパクチーや玉ねぎ、レモンがあるので、少しずつ味を変えて食べることもできます。辛くもできるので、寒くなったらポソレの出番です！



今月のメキシコ観光地

②クィクィルコ遺跡



メキシコシティ南部にある紀元前の遺跡。都会のなかにぽつんと聳え立っています。クィクィルコとは“歌の場所”という意味で、遺跡には登ることもできます。遺跡は溶岩源の中にあり、これはシトレ火山の噴火で埋まってしまったためです。メキシコシティの中にあるにも関わらず自然が残

されており、ここだけ時を止めたのかと思うほど神秘的な場所でした。

そして帰り道にハチドリと遭遇、空中で位置を保持しながら花の蜜を吸う貴重な瞬間を見れました。残念ながら動きが速すぎて写真は撮れませんでした。



③ソチミルコ

ソチミルコはメトロ（地下鉄）と路面電車を乗り継いで1時間弱の距離にある世界遺産です。スペインが侵略する前は大きな湖があったことを裏付けるソチミルコには無数の水路がはしっています。木々が生い茂り鳥が囀る間をぬって、まるで森林浴をしているような穏やかな気持ちで楽しめます。時々タマーレスと呼ばれるマヤ文化の食べ物や、お酒、花を売る人たちが船を近づけてくるので欲しければ買えます。マリアッチ楽団の船もあり、並走して音楽を奏でてくれます。船が大きいので週末は15人や20人で来て食べたり飲んだりしながら楽しく過ごすのが一般的だそうです。ソチミルコはウーパールーパーで有名なこともあり、爬虫類の施設も見学しました。ウーパールーパーを見るだけでなく蛇やかげを触ったり、ガラガラヘビが本当に音を出しているのをみたりもできました。

そしてメディアでも取り上げられることの多い、“人形の島”もここ、ソチミルコにあります。



ソチミルコの水路



人形島につられた人形